

健康登山02:周辺の山01(明ヶ田尾山・他)

コース	箕面 2.7km/49	箕面滝 1.4km/45	こもれば展望所 0.6km/15	自然歩道起点
	1.8km/57	天上ヶ岳 2.3km/49	記念の森 1.1km/32	鉢伏山 1.8km/49
	明ヶ田尾山 1.2km/25	高山集落 2.3km/36	高山口バス停	
水平距離	15.1km			
水平換算距離	17.9km			
累計高低差	登り1058m、下り845m			
標準歩行時間	5:57			
実績歩行時間	6:08			
		断面図		



山行報告

山行日 2005・07・07(木) 天候 晴 午後雷雨 参加者 5名

河原町7:38 箕面駅8:55~9:21 箕面滝9:59 こもれば展望所10:45 自然歩道起点
 行動 11:05 箕面川ダム11:25 天上ヶ岳12:01 記念の森12:52~13:34 展望台13:47
 鉢伏山14:10 明ヶ田尾山15:14 高山集落15:49 高山口16:29 池田駅17:10

記 録

周辺の山シリーズの1回目として五月山連峰の北部三山を歩いた。
 天上ヶ岳、鉢伏山、明ヶ田尾山の三山は分県登山ガイドで大阪府の山として紹介されている。
 箕面駅から天上ヶ岳へは百年橋経由が最短だが、前回歩いているのでルートを少し変えた。箕面滝から唐人戻り岩まで戻り、風呂谷 こもれば展望所 ビジターセンターを経て自然研究路3号線から取り付いた。静かでお奨めの道である。
 途中、箕面川ダムに立ち寄り、天上ヶ岳に向ったが野生に戻す実験中のサルに出会った。役行者の墓所になっている天上ヶ岳で小休止をした後、みのお記念の森へ向った。途中で車の通る市道を1.4km歩かねばならないが交通量は少ない。
 記念の森の休憩所で昼食を摂り40分休んだ。展望台からは近くの鉢伏山が見えただけだった。ゆるやかな登り道を20分ほど歩くと林に囲まれた鉢伏山に着いた。休まずに明ヶ田尾山へ向った。鉢伏山までは遊歩道を歩いているようだったが、明ヶ田尾山への道は斜面をトラバースするようにつけられていて滑りやすい。また、100mのアップダウンもあって少し山道らしくなる。明ヶ田尾山と高山集落への分岐で夕立が来そうなので雨具の準備をして頂上へ向った。山頂で記念写真を撮った直後に雷鳴と豪雨に襲われた。林に逃げ込んで雨具を着けた。高山集落への下山道は滝道と化していた。
 高山集落は静かな別世界のように高山右近生誕地碑や高札場跡などを見学して高山口バス停へ向った。
 高山口バス停は国道423号線だが道幅は狭くダンプ街道で整理体操はできなかった。今回は準備体操を行い出発前と昼食前に血圧測定した。
 運動後に血圧は下がり、心拍数が上がる傾向は前回と同じである。

箕面周辺の山（鉢伏山・明ヶ田尾山）



箕面駅出発
09:21



箕面滝
09:59



こもれび
展望所
10:45



箕面川ダム
11:22



天上ヶ岳
役行者の墓所
12:01



記念の森
13:34



記念の森の
展望台
13:34



鉢伏山にて
14:10



明ヶ田尾山
雷鳴轟く
15:14



高山高札場跡
15:48

史跡・石仏、高山コース

名所・旧跡ミニガイド（周辺コース：箕面～高山口）

天上ヶ岳：510m、山頂には役行者神変大菩薩が第42代文武天皇(697～707)の御代、大宝元年(701)6月7日に昇天墓所として記され、役行者像が立つ。

箕面山：355m(国の名勝)古来箕面山は箕面滝を中心に修験道の中心地として宗派を越えた信仰を集めた。

五月山連山：五月山、六個山、天上ヶ岳、鉢伏山、明ガ田尾山(池田～高山口)。能勢平野から眺めた姿は一直線に連なる約10kmの巨大な山脈ようで、それがどこまでも果てしなく続いているように思われる。(三角点は4箇所ある)

高山の集落：標高450mにある小さな集落。

キリシタン大名として著名な高山右近の本拠地。(現、豊能町高山)
高札跡、高山城址の台地、カ石、マリヤ地藏などがある。

高山右近(友祥)^{ともなが}：父高山飛騨守は高槻城主・和田是政^{これまさ}の家臣であったが、足利15代將軍義昭(よしあき)が信長と対立するようになると惟政は旧主義昭に従い茨木市白井河原で戦い敗死した。

惟政の家臣であった高山飛騨守は惟政の子 惟長(これなが)を倒して高槻城主となった。

1573(元龜4)年高槻城主となった高山飛騨守(洗礼名ダリオ)は、その子右近(洗礼名ジュスト)とともに、自らキリスト教の信仰に生き、また領内の布教に努めた。領内の信者は領民の8割にあたる1万8000人を数え、1581年(天正9)の復活祭はミサに信者が1万5000人も集まり、ヴァリニアーノ神父は『自分はローマにいるような錯覚におちいる』と記している。

右近はその信仰を捨てなかったために1614年(慶長19)に徳川家康の禁教令に触れ、100人余りの信者とともにフィリピンに追放され、翌年マニラで没した。